

①ユニバーサル (共生)

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと
(障壁や困難の解消(時間・季節を問わず)、格差の是正、機会の均等、
交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など)

②ウェルネス (健康)

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること
(身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など)

③スマート (快適・先端)

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること
(先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、
人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など)

●地震・風水害などの自然災害の頻発や新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、日頃の備え①や情報伝達手段③が充実し、災害時には、医療②や要配慮者への支援①などが適切に提供されていることが重要。

●また、交通③や食②に関し安全が保たれているとともに、デジタル化の進展により懸念される犯罪・トラブルの発生が防止されていること③が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×T	<ul style="list-style-type: none"> ・市民愛着度の高い市民の多さ ・住みよさ ・都市機能の集積 			<ul style="list-style-type: none"> ・頻発する自然災害 ・感染症のパンデミック
W×O		<ul style="list-style-type: none"> ・生産年齢の減少、少子高齢の人口構造 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術の急激な進歩 (AI、Iot) ・国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き 	

■基本目標 8 防災・減災体制が整った災害に強いまち

⇒ (修正案) 防災・減災体制が整い、迅速に復旧復興できるまち

※災害対策や日常の安全などの観点に特化
(健康や医療・介護・福祉を含む日常生活に関する事項は生活・暮らし分野)

※胆振東部地震の発生、新型コロナウイルスの感染拡大等の経験から、地震に加えて、風水害、感染症を防災・減災していく観点を強化するとともに復旧復興の観点を追加。
対応する現目標13 地域防災力が強く災害に強いまち

■基本目標 9 日常の安全が保たれたまち

※消費生活や交通安全、防犯対策など、平常時の安全を守る観点を強化。
対応する現目標14 安全な日常生活が送れるまち

■第2回審議会でもいただいたご意見

○防災・減災体制をいくら整えても、被害を防ぐには限界がある。防災・減災だけでは被害を防ぎきれないからこそ、被害を軽減することと、被害を受けた後の回復を助けることの2本立て、両輪が必要 (定池委員)
⇒基本目標に「迅速に復旧復興できるまち」と明記し、被害を受けた後の回復を支援する観点を位置付け

基本目標 8 防災・減災体制が整い、迅速に復旧復興できるまち

■目指す姿 (案)

1 地震や風水害・雪害といった自然災害や感染症の拡大などが起きて、生活や経済への影響を最小化するとともに、**感染症の拡大を早期に抑えることができています。**

※「防災・減災対策（耐震化、大規模停電対策、浸水対策など）」や「災害対策体制の充実」、「感染症への対応」の観点を記載。

2 災害時や感染症拡大時においても、**誰もが安心して医療や介護を受けられています。**また、一人で避難することが難しい方への細かな配慮がなされているなど、被災者の安全が確保されているとともに、復旧復興に向けて寄り添った支援が行われています。

※「災害時や感染症拡大時の対策」、「災害時要配慮者への対応」、「復旧・復興」の観点を記載。

3 防災への意識が向上し、誰もが冬季の災害も想定した備えを行っています。また、有事の際には一人一人が主体的に行動し、協力し合うなど、地域の防災力が高まっています。

※「自助（日頃からの備え等）」、「共助（地域防災等）」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと (案)

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> 所有建築物等の耐震化、停電対策、浸水対策や事業継続対策の推進【レベル】 ※停電対策、浸水対策の実施や業務継続対策の観点 <p>etc</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企業等との連携など、迅速な災害対策を行う体制の充実 防災関係機関や他市町村との広域的な連携体制の充実 災害時におけるライフラインや交通ネットワークの確保 公共施設、上下水道、道路などの耐震化、停電対策、浸水対策の実施や業務継続力の強化【レベル】 ※停電対策や浸水対策、業務継続力の観点 民間施設の耐震化や停電対策、浸水対策、事業継続対策の促進【レベル】 感染症の拡大を可能な限り抑制する早期の対応【新規】 <p>etc</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所や物資の提供など、災害発生時の協力 災害時や感染症拡大時の医療・介護の提供【新規】 災害時基幹病院を中心とした災害対応力の強化【新規】 高齢者や障がい者、外国人等の災害時要配慮者の避難支援体制の整備 迅速な復旧復興に向けた技術の高度化【新規】 <p>etc</p>	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な避難所運営や体制の整備 避難情報等の災害情報の積極的な提供 ICTや先端技術を活用した迅速な災害対応や効果的な情報伝達【新規】 災害時や感染症拡大時の医療・介護提供体制の整備や強化【新規】 災害時要配慮者に対する支援の充実 迅速な復旧・復興【新規】 <p>etc</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな災害への理解と防災意識の向上【新規】 各家庭や企業での備蓄など、災害への備え 災害時の地域や企業等の助け合い意識向上【新規】 防災訓練への参加など自主防災活動の推進 <p>etc</p>	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害や冬季災害を含めた防災への理解促進【新規】 子どもの頃からの防災教育の充実 自助・共助による自主防災活動の促進 <p>etc</p>

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 気候変動に伴う災害（洪水・土砂災害等）の激甚化・頻発化や新型コロナウイルスの蔓延を受け、耐震化や大規模停電対策、感染症対策などの防災・減災対策を通じて災害が起きて生活や経済への影響を最小化することが必要。
- 災害時には、医療・介護サービスを継続できる体制が整い、一人で避難することが難しい市民への細かな配慮がなされるとともに、迅速な復旧・復興に向け、被災者に寄り添った支援が行われていることが重要。
- 胆振東部地震の後、災害に対する備えを行っている家庭の割合は増加傾向にあるものの、災害に備えた活動を行っている自主防災組織の割合は横ばい傾向であり、冬季災害への対応も想定しながら、引き続き、公助に加え、自助・共助による災害対策に取り組んでいくことが必要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 災害時においては、安否が把握できないことに非常に苦労したことから、把握ができる仕組みなどがあると良い（佐藤理委員）
- 積雪寒冷期の災害想定もしているということも何らかの形で示した方が、「さまざまな方面に目配りをしている」という理解も深めてもらえる（定池委員）
- 積雪寒冷地であることを踏まえ、冬の災害が起きたことを想定して記載すべき（岡本委員）

基本目標9 日常の安全が保たれたまち

■目指す姿 **案**

- 1 犯罪や消費生活に関するトラブルの発生が未然に防止されています。
※「防犯対策」や「消費者被害の防止」の観点を記載。
- 2 強靱な消防・救急体制が構築され、市民の安全・安心が守られています。
※「消防・救急体制の整備」の観点を記載。
- 3 交通ルールや自転車マナーが順守され、事故の少ない安全な交通環境が実現しています。
※「交通安全」や「自転車対策」の観点を記載。
- 4 食の安全が守られ、誰もが健やかで豊かな食生活を送っています。
※「食の安全」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した消費者としての意識向上【新規】 ・法令を遵守した適正な取引行為の推進【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪や消費生活に関するトラブルを未然防止できる対策の充実 ※未然防止する観点【レベ】 ・子どもの安全など地域防犯の取組推進
2 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防火の意識向上と活動推進【新規】 ・広域的な消防行政への理解・協力【新規】 ・持続可能な救急医療体制のための連携【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防火対策の推進や持続可能な消防団体制の構築【新規】 ・広域的な消防行政の推進【新規】 ・大規模災害への備えや対策【新規】 ・救急活動等へのICTや先端技術の活用【新規】
3 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールなどの理解・順守・マナー向上 ・地域等での交通安全運動の推進 ・民間の土地・施設における公共駐輪場設置等への協力【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールや自転車マナーの理解促進 ・交通安全の担い手確保【新規】 ・歩行者、自転車及び自動車の通行環境の安全性向上と総合的な駐輪対策の推進【新規】 ・事故危険箇所の解消や子供の移動経路の安全確保に向けた取組の推進
4 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全への意識向上 ・食品の自主的な衛生管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産から販売までの安全確保 ・自主的な衛生管理等の推進 ・食品等の安全性に関する学習機会や情報提供の充実

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 犯罪や消費生活へのぜい弱性を帯びた高齢者人口が増加していくことが予想される中、デジタル化による消費行動の変化や特殊詐欺被害等への対応など、トラブルの発生が未然に防止されていることが重要。
- 高齢者の増加により火災時に逃げ遅れる死傷者の増加が懸念されるとともに高齢者の増加に比例する救急需要が予想される中、強靱な消防・救急体制を構築し、市民の安全・安心が守られていることが重要。
- 迷惑駐車や放置自転車の問題が続いていることや自転車対歩行者事故が増加していることから、事故の少ない安全な交通環境が実現していることが重要。
- 食に関する大きな事件・事故が発生し食の安全・安心が揺らぐと、市民生活のみならず、食産業や観光にも大きな影響を与えることから、食の安全が守られ誰もが健やかで豊かな食生活を送っていることが重要。

■第2回審議会でのいただいたご意見

- 該当なし